

イベント連動型マッチングサービス「Buddyup!」による 地域経済活性化に向けた取り組みを開始

公益財団法人川崎市産業振興財団(川崎市幸区、理事長:三浦淳)は、株式会社富士通研究所が研究開発中のイベント連動型マッチングサービス「Buddyup!」を活用し、川崎市内・市域機関を中心とした産学・産産連携による持続的かつ自主的な新規事業創出を支援する取り組みを開始しました。これによりコミュニティの形成を促進し、地域経済の活性化に寄与することを目指します。

<背景・経緯> ※参照【別添①】

- 川崎市産業振興財団(以下財団)は、キングスカイフロントに拠点を持つ複数の研究開発機関の間における協業、シナジーを通じて、地域経済を活性化させる支援を行うと共に、研究開発機関による新規事業の創出に取り組んでいます。2020年度より、財団はキングスカイフロントのクラスター運営の中核を担います。その中で、産学・産産連携や地域間連携が重要な課題となっております。
- 富士通研究所が開発中のサービス「Buddyup!」は、イベントに参加する人や企業をつなぐことにより産学・産産連携や地域間連携を促進できると期待され、企業における実績もあることから、本取り組みでの採用を決定いたしました。

<実施内容>

- 財団が共催する交流イベント「Tonomachi Café」(※)等の場において、Buddyup!を活用した参加者による交流を促進し、交流をきっかけにしたシナジーが生まれることを検証します。このシナジーを、殿町を中心に川崎市内複数の拠点に展開し、川崎市内、市域産業の発展に寄与することを目指します。

また、財団が実施している「中分子創薬に関する次世代産業研究会(IMD²)」など他イベントにおいても、Buddyup!をマッチングサービスとして活用し、イノベーション創出の基盤となり得るかを実証する予定です。

<イベント連動型マッチングサービス「Buddyup!」概要> ※参照【別添②】

- Buddyup!は、セミナーや交流会、展示会などのイベントの中で、リアルタイムに得られるプロフィール情報に基づき個人の興味やスキルを抽出し、コミュニティを形成しビジネスパートナーを提案するクラウドサービスです。
- 「コミュニティ内、コミュニティ間の人や企業をつなぐことを目的に、これまで多くの企業内、企業間の連携における新規事業創出に向けたワークショップなどのイベントで実績を積み重ねてきました。

(※)「Tonomachi Café」とは:

慶應義塾大学が中核機関として実施する国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」にて、川崎市(市長:福田紀彦)と公益財団法人川崎市産業振興財団(理事長:三浦淳)が共同して行うビジネス創出のための取組です。

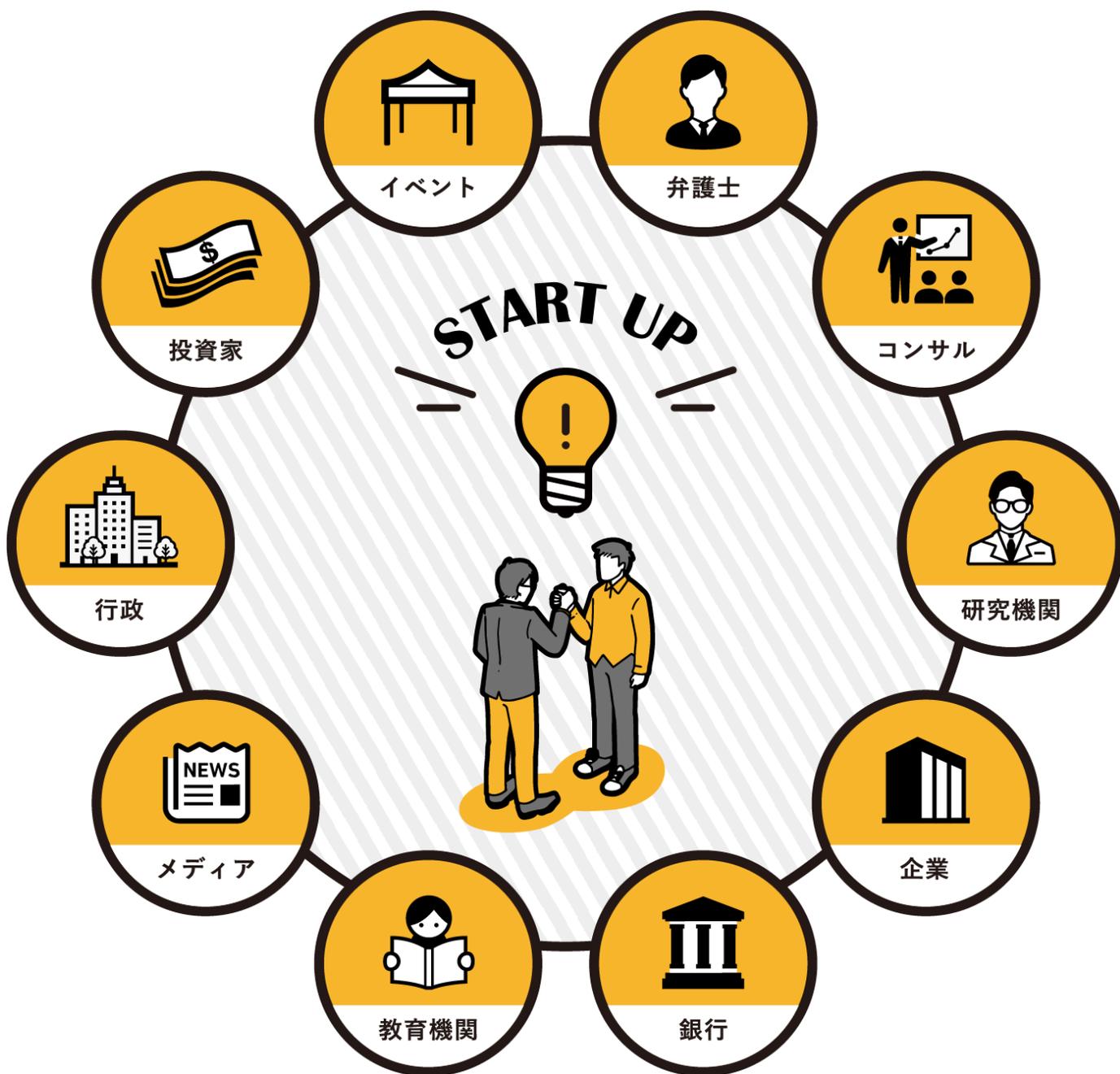
【別添①】

「川崎を日本版シリコンバレーにしよう！」という想い

市場創造型の事業で成功しているシリコンバレーでは、イノベーションのエコシステムができています。そして、市場創造型の事業を起こすためには、たくさんの人々の協力が必要となってきます。

川崎市域には多様なたくさんのプレイヤーがあり、これら多様性の交流を促進させることでイノベーションの創出が期待できます。

しかし、『ヒトとヒトのコミュニケーションが少ない。自発的に動く動機付けがない。』等の課題があることが分かり、その解決のため「Buddyup!」を財団が開催するイベント等で運用することにより川崎市にある拠点内連携から川崎市内外の拠点間連携、所謂クラスター連携が構築され、ヒトとヒトの反応＝イノベーションを起こしていきます。





Buddyup!

イベントに来ている人を仲間にする
デジタルサービス

Buddyup! は

参加者を興味ワードでリアルタイムにつなげます！
コミュニティにコラボを生み出します！



プロフィールから参加者の興味ワードを抽出

政令指定都市の探検を担当しています。観光客の誘致のための施策を検討していますが、これまでのデータ解析によると、来訪者は忍者に
関する歴史と文化に興味を引いているようです。

観光客

データ解析

忍者



コミュニティ全体の
興味を見る



興味でつながる
マッチング



気になる人に
会いに行く



「コラボを起こしたい」

交流会の開催やビジネスマッチングにお悩みではないですか？
数十社～数百社を対象にしたコラボレーションに難しさを感じていませんか？

コラボレーション活性化のための取組といえば



企業イベント の開催

勉強会・商談会・ビジネスマッチング

川崎市では羽田空港に面する殿町地区に、バイオサイエンスを中心に 80 以上の企業からなる研究開発拠点を形成しました。しかし、各社社員の交流は少なくコラボ上に課題があります。川崎市産業振興財団では、交流イベントを開催してコラボの実現に努めていますが、イベント内での効率的なマッチング、イベント成果の可視化の両面で悩みを抱えていました。



コミュニティ の形成

コミュニティ・コンソーシアム

大企業からのイノベーションの実現を目指すため、大企業の若手有志は ONE JAPAN という団体を作り、お互いの課題を持ち寄り解決を図っています。1000 人以上が参画する大きな団体であるため、仲間作りをどのように進めるかが、参加者にとって大きな問題となっていました。コンソーシアムの形成でも同様の課題が発生しています。



新規事業推進 プログラム

社内ベンチャー・ハッカソン

新規事業を開始する際には、多様なプロフェッショナルの知恵や、事業化のノウハウを持つアクセラレータの知見が必要になります。ところが、新規事業の社内公募をかけても、お互いにバラバラに活動するだけで、知恵が融合した力強い取組になかなかありません。イントラプレナーたちが融合するための「仕組み」が必要です。